



光 明



心和寺月報 第68号

2025 10月

THE KOMYO

令和7年 10月1日発行
(毎月1日発行)

法話

言葉のとげ、言葉のぬくもり 傷ついた心を仏にゆだねて

「こんなこと言われるなんて思わなかった」ふとした一言に、胸が痛むことがあります。たとえ悪意がなかったとしても、受け取った側の心には深く刺さってしまう—そんな経験は、誰しも一度はあるのではないのでしょうか。

仏教では、「口業(くごう)」、つまり言葉の使い方もまた、業(カルマ)を生む大切な行いのひとつと説きます。だからこそ、「何を言うか」だけでなく、「どう言うか」「なぜそれを言うのか」が大切なのです。けれど、他人の言葉を完全に制御することはできません。だからこそ私たちは、「どう受け止めるか」を大切にしたいのです。

真言宗では、心を清らかに保つために「真言」を唱えます。それは、言葉に仏の力を宿らせ、自分を守る修行でもあります。傷ついたときは、どうか静かに目を閉じて、ご真言を唱えてみてください。あなたを責める人ではなく、あなたを守る言葉が、そこにあるのです。

そしてもうひとつ覚えておきたいこと。あなたもまた、誰かを癒す言葉を持つているということです。優しい言葉、感謝の言葉、労いの言葉—それはきつと、傷ついたあなたにしか言えない、あたたかな言葉です。

言葉は刃にも、灯火にもなります。

傷ついた経験こそが、誰かに寄り添う智慧となりますように。

合掌

余録

秋は空気が澄み、虫の音や風の音が心に染み入る、静かな季節です。暑さがやわらぎ、瞑想や写経などにも適した時期となりました。仏教では、身・口・意を調える修行を重ねることで、内なる仏心に気づいていくと説かれます。

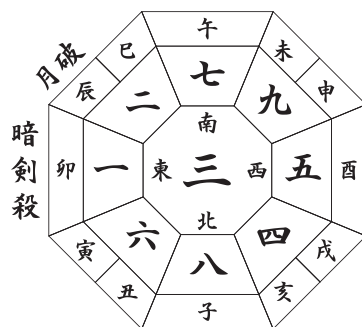
この秋は、日々のあわただしさから少し離れ、呼吸を整え、心を整える時間を持つてみてはいかがでしょうか。日常の中にこそ、修行の場があるのです。



10月の運勢

九星気学

五黄殺



詳しい運勢は、ホームページの「今月の運勢」をご覧ください。

祈願の申込み

祈願五〇〇〇円より
ネット申し込み可能です

月例行事の詳細情報

